

2024. 7. 17

7月例会

日時 令和六年七月十七日(水)

テーマ 経営を科学する

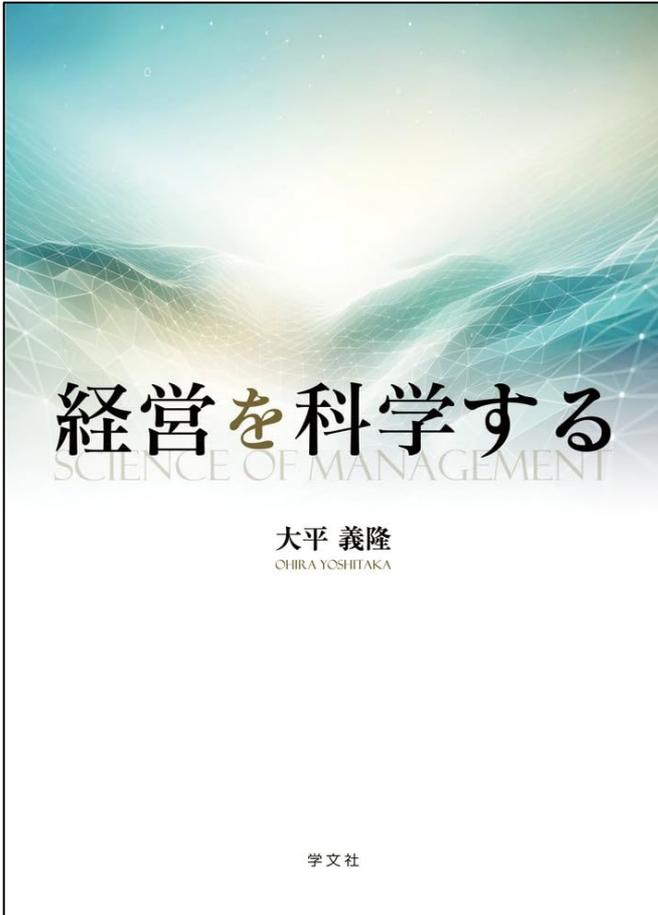
講師 北海学園大学大学院 経営学研究科 教授

大平義隆氏

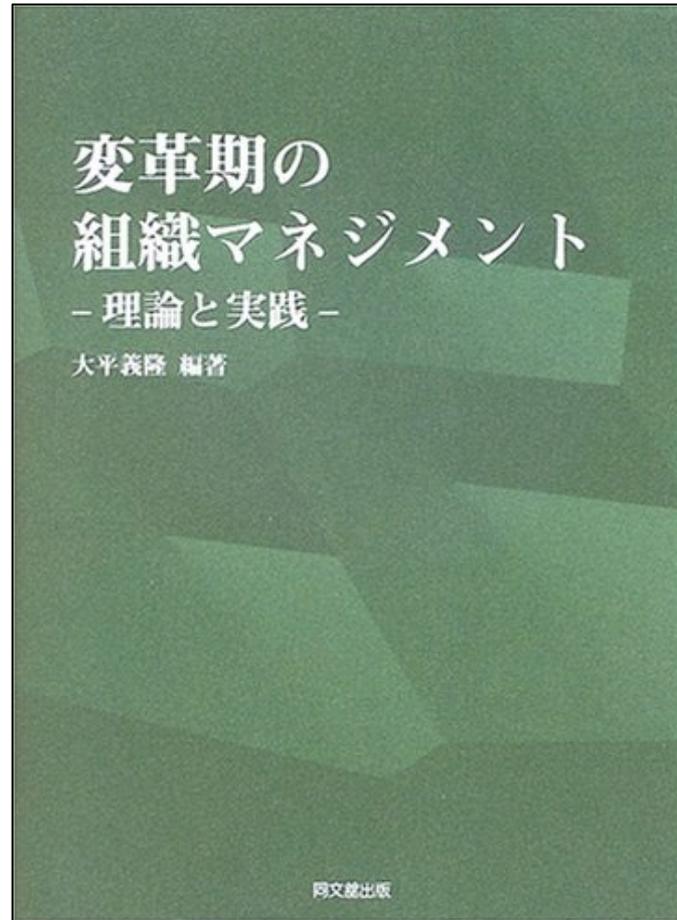
■ 略 歴

早稲田大学大学院商学研究科修士課程修了。1987年同大学院商学研究科博士前期課程修了。1992年専修大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得退学。同年、信州短期大学経営学科専任講師。1995年同経営学科助教授。1998年新潟経営大学経営情報学部助教授。2003年北海学園大学経営学部教授。2004年北海学園大学大学院経営学研究科教授を併任し、現在に至る。

大平義隆氏



経営を科学する, 学文社 (2024/4/30)



変革期の組織マネジメント: 理論と実践, 同文館出版 (2006/9/1)

2024. 8. 7
 日時 令和六年八月七日(水)
 テーマ アジア経済社会の変化と展望
 講師 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 遠藤環氏

8月例会

講師 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 遠藤環氏

遠藤環氏

遠藤環氏

■ 略 歴

1999年 京都大学法学部卒、京都大学大学院経済学研究科より博士(経済学)取得。京都大学東南アジア研究所研究員、埼玉大学経済学部専任講師、ロンドン大学(SOAS)客員研究員、埼玉大学経済学部准教授、埼玉大学大学院人文社会科学研究科准教授、ロンドンスクールオブエコノミクス(LSE)東南アジア研究所(SEAC)客員研究員、チュラーロンコーン大学経済学部客員研究員、埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授、ロンドンスクールオブエコノミクス(LSE)東南アジア研究所(SEAC)客員教授などを経て、2024年より現職。専門は、地域経済学、都市研究(東・東南アジア)、開発研究。



主著に、『都市を生きる人々：バンコク・都市下層民のリスク対応』(京都大学学術出版会、2011年。英語版は2014年)、『現代アジア経済論：「アジアの世紀」を学ぶ』(遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太編著、有斐閣、2018年。英語版はRoutledgeより2020年出版)、Urban Risk and Well-Being in Asian Mega Cities: Urban lower and middle classes in Bangkok, Shanghai, and Tokyo, (Endo and Shibuya [eds], Routledge, 2023) など。

遠藤環 埼玉大学教授

日本とASEANの未来 ① 共有課題解決へ連携緊密に

ASEAN諸国と日本の留学状況(高等教育機関)

送り出し	1位	2位	3位	受け入れ	
ブルネイ	2190人 英国	マレーシア	暹州	420人	
カンボジア	7401 暹州	タイ	米国	513	
インドネシア	59224 暹州	マレーシア	米国	—	
マレーシア	48810 英国	暹州	米国	100437	
ミャンマー	12628 日本	タイ	米国	—	
ラオス	8368 ベトナム	タイ	暹州	543	
フィリピン	26219 暹州	カナダ	米国	—	
シンガポール	19506 英国	暹州	米国	58269	
タイ	28609 暹州	米国	英国	27113	
ベトナム	137022 日本	韓国	米国	7760	
ASEAN合計	349979	—	—	195055	
日本	29385	米国	英国	暹州	222661

(出所) エヌエスフォーデータベース(2023年11月24日時点)

ポイント

- 成長速く先進国型と途上国型の課題共有
- 可能性や公平性重視へ発想の転換を
- 日本の若者のアジア留学の少なさを懸念

ASEAN諸国と日本の留学状況(高等教育機関)に関する記事の抜粋。表はASEAN諸国からの日本への留学状況を示している。記事は、ASEAN諸国と日本の関係、特に留学に関する現状と課題について述べている。成長速く先進国型と途上国型の課題共有、可能性や公平性重視へ発想の転換を、日本の若者のアジア留学の少なさを懸念というポイントが示されている。

現代アジア経済論

「アジアの世紀」を学ぶ

遠藤環・伊藤亜聖
大泉啓一郎・後藤健太 [編]

有斐閣ブックス

日本とASEANの未来(下) 共有課題解決へ連携緊密に、経済教室,日本経済新聞 (2023/12/1)

現代アジア経済論 - 「アジアの世紀」を学ぶ、有斐閣 (2018/3/28)